

骨粗鬆症外来

骨粗鬆症とは、骨量の減少と骨質の低下により骨折を起こしやすくなる病気です。閉経後は急激に骨量が減少するため、定期的に骨密度検査を行い、早期に発見・治療をすることが重要です。

骨粗鬆症の有病率は皆さんの想像以上に高く、50歳代では**10人に1人**、60歳代では**5人に1人**、70歳以上になると**3人に1人**が骨粗鬆症だと言われています。

骨粗鬆症の代表的な骨折である大腿骨近位部骨折（太ももの骨折）や腰椎圧迫骨折（腰骨の骨折）は寝たきりの原因になる可能性があります。

骨粗鬆症の検査と診断

現在、最も精度の高い検査法がDXA (dual-energy X-ray absorptiometry)法であり、当院でも採用しています。10分程度で痛みなく検査できます。また、血液検査で骨吸収マーカー、骨形成マーカー、25OHビタミンDを測定し、骨代謝の状態や骨形成に必要なビタミンDが足りているか知ることができます。これらの検査をもとに診断し、必要に応じて食事療法、運動療法、薬物療法を行います。

骨粗鬆症は早期に発見すれば治せる病気です。将来寝たきりの原因となる骨折を予防するために、まずは骨密度を測ってみましょう！

* 骨粗鬆症の診断および治療方針が決まったら、かかりつけ医に紹介させて頂く場合がありますが、ご了承下さいますようお願い申し上げます。